

令和4年度 自己評価と学校関係者評価

学校自己評価	学校関係者評価	
	意見	対応
(1)教育理念・目標 ・学校の理念・目標・育成人材像が明確に定められ、国際化する社会、企業・業界のニーズを定義できている ・時代の変化に対応する将来の構想について適宜見直しが必要とされている	毎週月曜日に行われている全校生徒に向けた朝礼も、学生・教職員ともに目標を再確認する場として、効果的に機能していると感じます。	職員一同が教育理念・目標を共有し具体的に教育現場に活かしていくようさらに努力していきます。
(2)学校運営 ・年度目標に沿って運営方針を定め事業計画を策定している ・学生の進路先である企業・業界・大学、学生募集窓口の高等学校や海外学校・提携エージェントとの連携はできている ・外部環境や時代の変化に対応できる組織運営を構築し、職員の育成を図ることが求められている	教育理念・目標を踏まえたカリキュラムコンセプトをしっかりと立てられており、新型コロナ対策として見直しも図れていると感じます。 「卒業進級制作展示会」は学生自身の成長を企業人が評価するイベントであり、今年度も開催できたことは評価できると思います。	企業連携では、年間を通じて連携できる企業を増やし、企業、学生にとって魅力的な場を数多く定期的に提供できるように努力していきます。GW明けには1社/複数社の内定があることが予想されるように就活が早期化してきています。コロナ禍の中で引き続きリアルとオンラインを活用した取組を計り早期就職活動に対応できるよう努力を続けていきます。
(3)教育活動 ・入学希望者のニーズや企業からの要望について、時代の変化を取り入れながら活動している ・就職先や進学先で求められる要件と課題を明確にしカリキュラムに反映している ・社会人として直ぐに対応できるよう、学生の生活態度や行動規範について学校生活や宿舍生活においても指導している ・留学生については日本社会に対応できるよう、日常生活に踏み込んだ指導を行っている ・進路先での技術・学力評価、人物評価を想定した目標を養うことを教員が心がけている ・卒業生の情報を収集し、進路先での問題点を抽出している	各企業が新入社員に何を期待しているか、その変化を学生が感じ取る必要があり、学校にはその為の準備をして欲しい。卒業生が実際の現場で感じているリアルな意見を収集できる体制づくりを継続して、より企業、業界のニーズに沿った教育を勤めて欲しい。また、シリコンバレー研修がしばらく現地で行われていないが状況はどうなっているのか	OBとの連携を深め、卒業生による企業セミナーを企画し、連携を深めていきます。自分で調べて何かをできる学生が求められていると基本的には感じます。必要な技術というのは移り変わりが激しく、学校で学んだものだけではなく、入社後に知るものもあり、いろいろ対応できるように最低限が変わらないペースはおさえおく必要があると考えています。 シリコンバレー研修は学校行事の目玉なので催行可能であればぜひ現地で開催したい。
(4)学習成果 ・資格対策やものづくりの向上については一定の成果をあげているが、より実践的な技術を磨くことを課題としている また、キャリア教育の面で課題を整理している ・日本語能力試験対策においても一定の成果をあげている	1年次での基礎学力と資格取得の目標に対して、前年より資格取得率が上回ったこと、また、卒業進級制作発表会に向けて下級生が高いレベルでチーム制作の作品を完成させられたことは大いに評価できる。	1年生の中には休み時間にタイピング練習をしたり、放課後に残って資格勉強をしたりする学生もいる。今も昔もモチベーションの違う学生がいるので、下の学生をどうやって引っばっていけるかは今後の課題である。
(5)学生支援 ・学生との個別面談などを通じて個々の学習面、生活面での観察サポートは一定の成果をあげている ・保護者や出身校との情報共有を含め学生のメンタルトラブルの予防や対応を図っている ・留学生アルバイトについて、アルバイト先開拓やクレーン窓口を含め担当職員をおき管理している	コロナ禍で特に高校での登校に何かと制限があった学生は、全日登校で体調を崩す可能性があり注意が必要だと思います。今まで以上に学生に寄り添った支援を行っていただきたい。その中、専門学校ではあまり行われていない保護者会や保護者面談などをこの状況でも継続されていて、情報共有や問題解決など、保護者と協力関係が出来ていると思われます。	コロナが5類となったことでリアル登校が増えることになり、個々への学生への配慮、保護者との連携は、教職員が心掛けて継続します。保護者会をオンラインで実施した結果、例年より多く(特に他府県の出身学生)の保護者参加があり、今後も校内とオンラインを併用して実施していきたいと思えます。また、クラスの人数が増えて、授業についていけない学生への手厚いフォローが厳しくなるので習熟度別にクラスを分ける等工夫が必要だと感じています。
(6)教育環境 ・施設・設備についての課題を抽出し、解決にむけ改善着手している ・計画に基づいて防災対策を整備している	新型コロナウイルスへの対策として、オンライン授業環境づくりや、学生数増加に伴う実習機器や教室整備など充実を図っている。新任講師には「Webカメラ・インターネットの強化・ZOOMソフトの活用研修」を行っていることは評価できます。	引き続き学生の安全を第一に考え、状況に合わせた対応を行っていきたく思います。今後はcopilotのために学内PCをwindows11への入れ替えを検討しています。
(7)学生の受け入れ募集 ・目標に向け計画的にルールに従って活動している ・学習成果が評価されるように情報発信している、また効果的な情報発信ができるよう工夫している ・留学生については、現地面接と家庭訪問により経済的基盤などを確認し、入国審査に対応できるようにしている	オープンキャンパスを年間30回以上も開催されておられ、またそれ以外の会場ガイドランスで、入学希望者に情報を伝える努力をしていると感じます。また、学校ホームページやSNS等で学生作品等の情報が発信されていることで入学を検討する上での判断材料となっている。	入学希望者に対してよりわかりやすく本校の魅力や成果を伝える為、SNSで発信していく努力をしています。また、高校生に向けた本学ホームページのリニューアルを行う予定です。
(8)財務 ・デザイン・コンピュータ学科の学生募集はコンスタントに毎年入学者数が増加の実績をあげている ・日本語科は新型コロナウイルスの影響も少なくなっており、入学学生数が改善してきた	コロナ禍の影響が徐々に少なくなってきたかと思いますが、経営的にはどのような状況でしょうか。	デザイン・コンピュータ学科は入学者数が増え、本年度も継続して学生数を確保できています。留学生も入国してきており状況は良くなっていますが、今後また感染拡大等で状況が変化する可能性もあるので注視していきます。
(9)法令等の遵守 ・平成25年度より自己評価を実施し公開している ・留学生の受け入れ、生活支援において在籍管理を徹底している また、犯罪や不法滞在を未然に防ぐべく、警察との情報交換を定期的に実施している	留学生に限らず、法令遵守や社会生活のマナー等については、専用に時間を設けるなど、よく取り組んでいると思います。引き続き、継続して取り組んで下さい。	学校周りは狭い道が多く自転車を使う学生にとってはトラブルの元となっています。地元の阿倍野警察署とも連携・講習会を継続して周知していき、事故トラブルが無いように取組んでいます。+A6.C12
(10)社会貢献・地域貢献 ・学生が地域の祭りに参加しイベントのサポートを実施している、また近隣の清掃を定期的に実施している ・教育業界の各団体の役員・メンバーとなり活動している ・日本語教師養成講座を年2回開講し、社会人の転職活動を支援している ・ウクライナ避難支援として日本語科にて学生を受け入れている	地域の祭礼や清掃活動などに参加する機会はありません。周辺地域の方々に学生の姿を見ていただけるため、大切にしているのが学習面だけでないということを知っていただけの良い機会であり、継続して行ってほしい。ウクライナ学生支援会については国内外にも影響あり国際支援活動に貢献してください。	新型コロナウイルスで活動の機会が減っているが、出来る事に参加して継続して、学外での活動を通じて人間教育をしていきます。 ウクライナ避難支援活動を行い、学生支援に取組んでいます。応援をお願いします。